

四 中国をめぐる列国との関係

1 一般問題

285

昭和9年2月2日 在南京日高總領事より

広田外務大臣宛(電報)

張學良の中国空軍拡張建議および同拡張計画
への伊國義和団事変賠償金の利用などに関する情報について

南京 2月2日前発
本省 2月2日後着

第八七號

往電第七九號ニ關シ

情報ニ依レハ張學良ハ伊國滯在中支那空軍建設ニ付伊國側ト接觸シタルモノノ如ク歸國後中央ニ對シ空軍擴張案ヲ建議シ(學良航空部長說有ル所以)蔣介石ニ對シ伊國飛行家紹介ノ斡旋ヲ爲シタル趣ノ處他方蔣介石ハ今次ノ福建討伐ノ

勝因カ全ク空軍ノ爆撃ニ在リタル事ヲ痛感シ反蔣地方軍閥

餘リ氣乗リセサル等マダマダ困難ナル事情ハアルモ)彼等ノ大多數ヲシテ成ルヘク速ニ本件ニ關スル一層堅キ決意ヲ生セシメ以テ大イニ前記(三)ノ中央部ヲ動カシ得サル迄モ何時ニテモ其ノ方面ノ空氣ノ改善ニ對應シ得シムル様誘導致度キ所存ニテ其ノ見込無キニアラスト信シ居リ
三、尙當地支那側關係者ヨリ得タル印象ニ依レハ周作民其ノ他民間側ノ策動ハ他ノ問題ハ兎モ角延長線ニ關スル限り

目下ノ處到底本人ニ南京政府ヲ動カス迄ノ力無ク將又個人トシテ之ニ當リ得ル程ニ資本的背景有力ナリトモ認メ難キ爲旁差詰メ所謂利權漁リノ一種ニ墮スルコト無キヤニ付内々尠カラス危惧ノ念ヲ懷カレ居ルモノノ如シ御参考迄

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

支、北平、南京、天津、濟南へ轉電セリ

~~~~~

ニテハ整備スル事困難ナル空軍ヲ中央ニ於テ建設スルニ於テハ全支ノ統一敢テ至難ナラストノ自信ヲ強メタルモノノ如ク往電第六七號四中全會宣言中特ニ國家ノ統一ト建設トヲ強調シ居リ又多聞。通信(ハ)四中全會ニ於テ空軍建設第一期五千萬元實行案ヲ議決セラレタル旨報道シ本件具体化ヲ思ハシムル點有リ當方ニ於テ真相探査中ナルカ右建設案ハ航空署自体ノ案ナルヤ又前記學良ノ提案ヲ採擇シ財源ヲ伊國團匪賠償金ニ求メントスルモノナルヤ將又米棉借款(宋子文ハ本年度該借款ニ依ル政府手取りハ約五千萬元ト稱シ居レリ)ニ依ルモノナルヤ(二十七日經濟委員會常務委員會議ニ於テ棉麥借款ノ使途ニ付激論有リタル旨傳ヘラル)不明ナリ尙往電第八六號蔣介石ハ杭州ニテ學良及東北將領ト重要協議ヲ爲ス旨傳ヘラレ居レリ御参考迄  
支、北平、天津、滿洲へ轉電セリ

286 昭和9年2月22日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

義和団事変賠償金を担保とする伊國借款の使

途に關し唐有壬内話について

南京 2月22日後発  
本省 2月22日後着

第一三八號(極秘)

公使發貴大臣宛電報第九〇號三關シ

二十日唐有壬ト會談ノ際本官ヨリ伊國ノ團匪賠償金ヲ擔保  
トル借款ハ四千四百萬元ナリト傳ヘラルカ其ノ使途如何ト尋ネタル處唐ハ内密ノ御話乍ラ實ハ三千萬タケカ手取  
ニテ之ヲ七百五十萬元宛四ヶ月分ノ軍費ニ當ツル事トシ居レリ尤モ右ニ對シテハ教育界方面ヨリ團匪賠償金ヲ軍費ニ充當スルハ該資金本來ノ趣旨ニ反スルモノナリトノ强硬ナル反対有ル次第ナリト言ヘルニ依リ本官ヨリ然ラハ殘りノ一千四百五十萬元ノ使途如何ト重ネテ尋ネタル處唐ハ其ノ内八百五十萬元ハ伊國ノ古キ對支借款返却ニ當テ殘額約五百五十萬元ヲ團匪關係基金トシテ暫時留保スル事トナレリト述ヘタリ(本件伊國ニモ關係有ル事ナレハ絶對極秘ニ願

度トノ唐ノ要請ナレハ右御含ミ置キ相成度)  
支、北平、滿へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

中国問題での日英協力關係構築のため密接な連絡の保持を在中国英國公使要望について

南京 3月8日後発  
本省 3月8日後着

第一九五號

「イングラム」ヨリノ申出モアリ七日「カドガン」公使ト會見セル處「カ」ハ先ツ客年十二月二十六日在本邦英國大使ヨリ閣下ニ傳達セル「サイモン」外相覺書(歐二機密合第三四號)ニ明示セラルル日英協力ニ言及シ右ハ特ニ支那ニ於テ剝切ナレハ今後何カニ付ケ密接ナル聯絡ヲ保チ度旨申出テ支那ノ政情及日支關係ノ現状ニ關シ極メテ熱心ニ質問シ長時間會談セルカ「カ」ノ談話中參考トナルヘキ點左ノ通

一、打明ケテ言ヘハ聯盟規約ノ「サンクティティイ」ヲ嚴守

スルノ役目ヲ負ヘル英國ニ取り満洲國問題ハ大ナル難題

ニシテ日本ハ之カ爲英國ニ於テ多數ノ友人ヲ失ヘリト言

ハサル可ラス日本ノ聯盟脫退ニ依リ事實上颶風一過ノ感

有リ此ノ儘滿洲國モ成長スルコトトナラハ漸次右友人等

モ亦復歸スルニ相違無カルヘク唯御注意願度ハ満洲問題

ノ爲日英兩國ノ友誼ハ何等阻害セラレサル點ナリ

二、上海ニ來着スルヤ「ドラモンド」、「モニー」等ヨリモ貴官ノ話ヲ傳ヘ聞ケルカ自分モ列國ノ支那ニ對スル合作ニ

ハ日本カ缺ク可カラサル「アクター」ナルヲ確信シ居リ

自然明八日會見ノ筈ナル「ライヒマン」ノ如キモ少々困

リ居ル様子ナリ

三、本國政府ヨリ支那ノ現狀視察ノ上公使館ノ仕組ニ付意見ヲ具申スヘキ旨内命セラレ(居)ルカ事實北平ハ餘リニモ「バツク、ウォター」トナリ居レハ前任者ヨリモ頻繁ニ來寧シ度キ積リニテ自然目下ノ不便ナル南京ノ事務所及住居ヲ何トカセサル可カラス何レニセヨ茲ニ、三箇月中

ニ意見ヲ纏メ度キ考ナリ

支、北平へ轉電セリ

287 昭和9年3月8日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

編注『日本外交文書』昭和期II第二部第三卷第184文書。

288 昭和9年3月12日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

国際連盟などによる对中国國際協力問題に関するライヒマンと意見交換について

南京 3月12日後発  
本省 3月13日前着

第二〇七號

十日上海ニテ「モニー」「ドラモンド」ニ招カレ會食ノ際「ラ

(欄外記入) イヒマン」モ同席セルカ本官ヨリ「ラ」ニ對シ國際協力ニ關スル事業ハ進捗シ居ル譯ナリヤト試問セル處「ラ」ハ自

分ハ宋子文ノ求ニ依リ支那產業ニ關スル數字ヲ研究シ居ル

ノミナルカ是等ヲ基礎トシテ經濟委員會ハソロソロ活動ノ

シ居ラスト答ヘタルニ依リ

本官ヨリ支那ノ實狀ハ云フ迄モ無ク特殊ノモノナレハ之ニソグハサル歐米殊ニ聯盟式ノ遣口等ヲ其ノ儘ニ適用セント

スルハ無駄骨ナリ又支那政治家ニハ東洋殊ニ日本ニ關スル知識カ絶対ニ必要ナルニ拘ラス日本ハ知ラス支那ニ付テサヘ認識充分ナラサル政治家カ幅ヲ利カシ居ルハ苦々シキ限リナリト述ヘタルニ「ラ」ハ苦笑シツツ自分ハ求メラルハ最近支那建設ニハ獨特ノ計畫ヲ必要トシ特ニ獨逸流ノモノ等不適當ナルニ氣付居レリト簡單ニ答ヘ居タリ  
支、北平へ轉電セリ

(欄外記入)

極力妨害スルコト

289 昭和9年3月25日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

各国個別の对中国支援および經濟活動に関する  
在中国獨國公使との意見交換について

南京 3月25日前發  
本省 3月25日後着

\*  
第二五四號

太利ニ第三國カ無闇ニ飛行機ヲ輸入シ飛行場ヲ建設セリトセハ貴國ハボンヤリ傍観シ居ル譯ニハ行カサルヘシト應酬シ置キタリ尙同公使ハ日本カ各國ノ個別的對支進出ニ反對ナラハ一日モ早ク日支關係ヲ正常化セシムル以外ニ對抗ノ方法無カルヘシト附言シ居リタリ

290 昭和9年4月6日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

国际合作による中国開発計画をライヒマン、宋子文、孔祥熙らが連日協議中との情報について

上 海 4月6日後発  
本 省 4月6日後着

第二三二號

五日 A、D 情報

浙江實業銀行總經理李銘側近者ヨリノ聞込ニ依レハ近ク歸壽ノ「ライヒマン」ヲ中心ニ宋子文、孔祥熙(顏惠慶モ關係有リ)等ノ間ニ國際經濟合作ニ依ル支那開發計畫ニ付連日協議中ニテ其ノ内容ノ詳細ニ付テハ彼等少數ノ者以外知ル由モ無ク又實現ノ可能性有ルヤ否ヤモ不明ナルカ右ハ大体

<sup>(1)</sup> 「トラウトマン」公使トハ二十日其ノ來寧以來數回懇談ヲ重ネタルカ談話中同公使ヨリ支那ニ於ケル國際合作問題ニ付隨分話ヲ聞キ居ルカ何レモ日本ヲ除外スル如キ案ニテ意外ニ思ヒ居ル處日本側ノ意嚮如何等ト尋ネタルニ依リ段々御訓令ノ次第ヲ敷衍説明シタルニ同公使ハ自分モ支那ニ於テハ日本ヲ除外スル如何ナル國際合作モ效果ナキノミナラス日本ニ對シ「アンフレンドリー」ナリト思考シ居リ聯盟ニ依ル合作ト雖同様ナリト吹聴シ居ル程ナルカ日本ニハ各國個ノ對支援助若ハ企業ニ對シテ迄全然反對ナルカ如キ風潮アルヲ通信其ノ他ニ依リ承知シ居ル處右ニ關シ先般北平ニ於テ米國責任者(米國公使トハ言ハサリキ)ヨリ此ノ話出テ獨逸モ顧問等ニ付種々非議セラレ居ルニ非イヤトノ質問アリシ際自分ヨリ顧問ハ先年日本モ隨分支那ニ入レ居リタルカ何レモ政府トハ無關係ナリシヤニ承知シ居リ

獨逸モ同様ナレハ疑惑ヲ抱カルヘキ筋合ニアラスト答へ置キタルカ右責任者ハ米國ヨリノ飛行機賣込、飛行教官來支モ同様ナリト話シ居タリト詳細内話セルニ依リ本官ヨリ成程御話ハ御尤ナルカ何レノ國ト雖最密接ナル關係アル隣國ニ於ケル外國ノ行動ニ對シ無關心タリ得ヘキ筈無ク假ニ喫

最近獨逸カ經濟恐慌ノ爲賠償金支拂能力ヲ失ヒ國際決済銀行カ著シク其ノ作用ヲ失ヒツツアルニ顧ミ同銀行ヲ利用シ其ノ現有ノ機能ヲ轉シテ對支投資機關タラシメ獨逸ヨリ賠償金ノ代リニ支那開發ニ必要ナル機械類其ノ他物品ヲ提供セシメ之ヲ賠償金受取國ノ對支投資ノ形式ニ改メ依テ以テ其ノ賠償金決済ニ資セントスル計畫ナル趣ニテ「ラ」ハ右計畫案ヲ携行スルモノト思ハル  
而シテ右ニ依ル支那開發計畫中ニハ西北地方、長江流域及南支ヲ包含シ居ルモ北支ハ除外セラレ居ル由ニテ注目ニ值シ尙曩ニ顏惠慶歸國ノ際在歐各公使ノ總意トシテ中央ニ對シ提出シタル英米資本ヲ吸收シテ中國ヲ開發スヘシトノ意見書及今次宋子文西北視察等ハ何レモ本件ト關係有ルヤニ察セラル  
本件ハ「モネー」ノ須磨ヘノ談話及陳介ノ大村ヘノ談話トモ一脈關聯有ルヤニモ思料セラルニ付聞込ノ儘不取敢北平、天津、南京、漢口、福州、廣東、香港へ轉電シ上海へ轉報セリ

291

昭和9年4月11日

在ユネーヴ横山(正幸)国際会議事務局長代理兼総領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

## ライヒマンの中国における活動に関する国際連盟事務総長内話について

ジ ュ ネ ー ヴ 4月11日後発  
本 省 4月12日後着

第七九號

佐藤大使ヨリ

(欄外記入)  
事務總長ハ十日軍縮幹部會ニ出席ノ機會ニ集合セル各國主  
要代表者ヲ午餐ニ招待本使モ出席セルカ席上「ア」ハ「ラ  
イヒマン」最近ノ行動ニ付日本側ハ如何ナル感想ヲ有セリ  
ヤト質問セルニ付本使ハ日本側ニテハ自分ノ承知スル限り  
餘り重要性ヲ置キ居ラサルモノト思ハルルモ唯「ラ」ノ過  
去ノ行爲ニ徵シ日本側カ極メテ「メフィアン」ナルコト確  
ニシテ從テ彼カ現在爲シツツアルコトニ付日本トシテハ相  
當神經ヲ尖ラシ居ルモノト思ハル本使個人トシテハ「ラ」  
カ永ラク支那ニテ仕事ヲ爲ス内ニハ日本ヲ除キテハ東亞ニ  
於テ何モ出來サル次第ヲ認識スルコト遠カラスト考フト答

ト信シタルヲ以テ派遣ヲ決断シタル次第ナル處其後ノ經過  
ヲ見ルニ正ニ豫期ノ通ナリ自分ハ彼ノ所爲ニ付彼自身ラシ  
テ責任ヲ執ラシメタルモノニシテ此ノ處置ハ誤ラサリシコ  
トヲ信スト述へ更ニ語ヲ繼キテ聯盟ノ支那ニ對スル技術的  
援助ニ付テモ日本ヲ除外シテ之ヲ實行スヘキニアラスト確  
信シ居リ支那ニ對シ聯盟ヨリ或種ノ援助ヲ必要トスル事實  
ト東亞問題ニ付日本ヲ除外スヘカラストノ事實トヲ併セテ  
考フル必要アリト述ヘタリ

之ニ對シ本使ハ支那ニ對スル凡テノ處置ニ關シ日本ハ當然  
ノ權利トシテ之ニ干與スルヲ要スル次第ナリ本邦ニ於テハ  
日本ノ助力ナクシテハ支那ニ對スル如何ナル方面ノ援助ト  
雖モ實效ヲ奏シ得スト確信シ居レリ此ノ點丈ハ篤ト御含ミ  
置カレ度シト述ヘ置キタリ  
之ヲ要スルニ「ア」ノ口吻ニテハ支那方面ニ於テ別段日本  
ニ對シ不愉快ナル處置ヲ執ラントシ居ラサルコト略察セラ  
ベシ

ルルノミナラス日本ニ對スル態度トシテハ極メテ公正且好  
意的ナル様見受ケラレタリ(尤モ本使ヨリ來月開催ノ日支  
問題諮詢委員會ニ言及シ考ヲ聽ケルニ對シ「ア」ハ別段意  
見ヲ開陳セス)  
米ヘ轉電シ在歐洲各大使ヘ暗送セリ

(欄外記入)

佐藤ハ今少シク帝國ノ立場ヲ明白ニシ宜シク左ノ點ヲ強調ス  
ベシ

(一)支那問題ニテ日本ガ聯盟ヲ脱退セル今日聯盟ハ支那ニ於テ

日本ノ感觸ヲ害スルコト一切避ケラレ度シ——「ラヒシマ

ン」ノ如キハ再び派遣セサルヲ希望ス

(二)日本ハ聯盟ガ技術援助等ノ名義ノ下ニ支那ヨリ政治的ニ利

用セラルコトヲ甚タシク不快ニ感ジ居レリ

(三)斯ル援助ハ結局支那ノ爲ニ利益ナラズ且ツ日本ノ担任スル

東亞ノ平和及秩序ノ維持ニ逆行ス

~~~~~

合第四一六號

292 昭和9年4月18日 広田外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

付 記 四月十八日付、守島垂細亞局第一課長作成
「次回軍縮會議ニ於テ九國條約ヲ再確認スル
コトノ不可ナル理由」

本 省 4月18日発

支那側又ハ外國方面ニ於テ一九三五年ノ海軍軍縮會議ノ際
支那問題ヲ蒸返サムコトヲ夢想シ居ルモノナキニシモ非サ
ルカ如ク從テ我方トシテハ早キニ及ンテ斯ノ如キ夢想ヲ打
破スルニ萬遺憾ナキヲ期スルコト肝要ナリ蓋シ滿洲上海兩
事件後東亞ノ問題ニ付不幸列國ト意見ヲ異ニシ聯盟脱退ヲ
モ餘儀ナクセラレタル帝國カ東亞ニ於ケル使命ヲ自ラ遂行
スル決意ヲ堅メタル今日東亞ノ問題ヲ國際會議ノ題目トシ
テ取扱コトヲ承認シ得サルハ當然ニシテ帝國ハ飽ク迄諸

列國トノ親交關係ノ增進ヲ企圖スルモ帝國ノ東亞ニ於ケル地位ハ之ヲ嚴守セサルヘカラサル所ナリトス就テハ前記ノ如キ夢想打破ノ必要ニモ顧ミ往電合第三〇四號(南京宛往電第三六號)在支公使宛往電第一〇九號等御參照ノ上責任國適當ノ方面へ我方ノ態度ヲ可然徹底セシムル様此ノ上共精々御努力相成度往電合第三〇二號末尾ノ次第ハアルモ特ニ申進ス

(一)本電支、滿、北平、南京、廣東ニ轉電セリ
(二)本電英ヨリ在歐各大使及壽府ニ暗送アリ度

本大臣發在支公使宛往電第一〇九號英ヨリ土及在歐各公使ニ暗送アリ度

往電合第三〇二號乃至合第三〇三號英ヨリ在歐各公使ニ暗送アリ度

(三)右各電露ヨリ波斯ニ暗送アリ度

四本電米ヨリ紐育、桑港、市俄古、加奈陀、玖馬、墨ニ暗送シ又在伯大使ニ轉電アリ度

本大臣發在支公使宛往電第一〇九號米ヨリ桑港、市俄古、加奈陀、玖馬、墨ニ暗送シ又在伯大使ニ轉電アリ度

往電合第三〇二號乃至第三〇三號米ヨリ桑港、市俄古、

(付 記)

(五)右各電伯ヨリ在南米各公使ニ暗送アリ度
(六)往電合第三七四號在英、米、伯、露各大使ヨリ前記ノ振合ニテ轉電又ハ暗送アリ度

(七)前記各電暹羅ヘハ目下歸朝中ノ矢田部公使ニ托送ノ筈

玖馬、墨ニ暗送アリ度

次回軍縮會議ニ於テ九國條約ヲ再確認スルコトノ不可ナル理由(昭和九、四、一八、守島私見)

(甲)最大ノ理由、心理的影響
日本ヲ主柱トスル東亞ノ平和維持ニ對スル最大ノ障碍タル支那ノ以夷制夷的抗日心理ヲ刺戟ス

(乙)實質的影響
日本ヲ半獨立化セムトスルノ必要生スル場合ニ支障ヲ來ス虞アリ

(八)第二條ハ今後日本ト滿洲國トノ間ニ締結セラル、コ

(付 記)

一、九國條約ノ規定ヲ再確認スルニ於テハ日本ハ早晚右約束ヲ破ラサルヘカラサルコトトナル虞アリ例ヘハ

(イ)第一條ノ(一)ハ今後若シ(可能性ナシト云フヘカラス)

北支ヲ半獨立化セムトスルノ必要生スル場合ニ支障

ヲ來ス虞アリ

トアルヘキ約定トノ間ニ矛盾ヲ來ス虞アリ

(丙)我方ノ容認シ得ヘキ限度

一、支那ノ領土保全及門戶開放機會均等主義維持ヲ漠然抽象的ノ辭句ニテ日米共同宣言ノ一部トシテ插入スルコトニ依リ軍縮會議ニ於ケル我方ノ立場ニ有利ナル影響ヲ招來シ得ヘシトセハ右ハ必シモ不可ナラサルヘシ

(此ノ場合内心我方ハ支那トハ滿洲國ヲ含マスト考ヘ居リ米國ハ含ムト考ヘ居ル譯トナルヘシ)

二、然レ共右宣言ノ字句中九國條約トカ同條約ノ第何條トカト言フカ如キ的確ナル「デイフィニシヨン」ヲ附スルコトハ不可ナリ蓋シ(イ)斯ノ如クスルトセハ我方ニ於

テモ九國條約ハ滿洲國ニ適用ナシトカ所謂支那(又ハ中華民國)ニハ滿洲國ヲ含マサルモノトストカ言フコトヲ明確ニ「リザーブ」セサルヲ得サル次第ナル處右

ハ米國側ニ於テ到底承認セサルヘシ(ロ)我方トシテハ前記ノ如キ的確ナル「デイフィニシヨン」ヲ附スルニ於テハ自然九國條約全体ノ再確認ヲ誘致スル結果トナル

ヲ恐ルルナリ又九國條約ノ領土保全及門戶開放機會均等主義維持ヲ規定スル條項ノミヲ「シングルアウト」コト少ナカルヘク之ニ反シ一旦九國條約ヲ再確認シ乍ハ事態變動論等ニテ行クコト可然外國側ヲ刺戟スルラ右ノ如キ態度ヲ執レハ外國側ヲ刺戟スルコト遙カニ

シテ再確認スルコトモ同様我方ノ好マサル所ナルカ一
方米國トシテモ右ノ如ク關係條項ノミヲ「シングルア
ウト」スルトキハ他ノ條項ハ再確認セラレサル結果ト
ナルヘキニ付之ヲ肯セサルヘシハ免ニ角前記一ノ如キ
漠然タルモノトセサル限り日米ノ要求ヲ「ミート」セ
シムル方法ナシ

目的物トスルコトハ日本カ東亜ノ主ナルコトヲ支那及列国ニ
印象セシムル所以ニ非ス
乙、會議外交、多邊的條約ニ掛ケズトスルモ九國條約ノ再確
認トナルカ如キコトハ不可

三、前記一ハ軍縮會議ニ於ケル我方ノ立場ヲ有利ナラシム

ル效果アリトノ假定ニ基ケルモノナルカ右ノ如キ效果
ナシトセハ我方トシテハ「コンミツト」スルノミニテ
何等ノ利益ナキノミナラス「漠然タル抽象的ノ辭句ヲ
插入スルコト」丈ケニテモ日米ノ意見纏ル前ニハ多少

トモ議論ヲ闘スコトナルヘク右ハ支那側ニ支那問題
カ國際會議ノ組上ニ上セラレタリトノ印象ヲ少シニテ
モ與フヘク旁々前記一ト雖モ軍縮會議ニ於ケル我方ノ
立場ヲ有利ナラシムヘキコト相當確實ニ非レハ好ンテ
試ムヘキ策ニ非ス

(付 篇)

甲、支那問題ヲ會議外交ノ目的物トスルコト、多邊的條約ノ

293 昭和9年4月25日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)
ゼークトの軍事顧問就任説否定など在中国独
國公使の内話について

南京 4月25日前発
本省 4月25日後着

*第三九一號

一、本二十四日獨逸公使「トライトマン」本官來訪ノ際二十
日當地ニ到着セル「ゼークト」ノ消息ヲ尋ねタル處「ト」
ハ「ゼ」ハ日下滯寧中ナルモ自分ニハ一週間以内ニ南昌
ニ赴キ蔣介石ト打合ノ上漢口ヨリ鐵路北平ニ赴ク筈ナリ
トノミ答へ多クヲ語ラサルニ付何時頃迄支那ニ逗留ス可
キヤ不明ナルモ蔣介石ノ正式顧問トナルカ如キコトナカ
ルヘク「フランケン、ホーゼン」ハ私用ノ爲遲レ六月頃

來支ノ豫定ナリ獨逸航空會社(公使發閣下宛電報第三三
九號御參照)ニ付テハ今ノ所知ル所ナキモ或ハ會社ニ直
接詰合行ハレ居ルヤモ知レスト答ヘタリ

二、(イ)最近支那側ヨリノ情報ニ依レハ通車、通郵問題ノ交渉

ハ南京ニ移サル可シトノ說鮮カラス

(ロ)「チャイナ、ブリティッシュ、コーポレーション」等

第三者ヲシテ交渉ノ衝ニ當ラシメ滿洲國ヲ承認スルノ結
果トナルヲ避ケ度シトノ考相當行ハレ居ル趣ナルカ實狀
如何

ト問ヒタルニ付本官ヨリ

(イ)ハ交渉部、鐵道部邊リノ考ナル可キカ他ノ點ハ別トシ
テモ客年秋當事者間ニ於テ河北問題ハ地方的ニ解決ス可
シトノ了解ニ達シタル經緯アルニモ顧ミ問題トナラス又
(ロ)付テハ本月十七日「ホルマン」本官ヲ來訪ノ際河北
問題ニ付英國邊リカ調停ニ出テハ如何トノ話アリト内
話シ居タル所略同一ノ考ニ出ツルモノナル可キカ是亦當
事者間ノ了解ニ反スルノミナラス支那關係ノ問題ニ今更

第三者ノ容喙モアリ得サル可シ
ト然ル可ク應酬シ置キタリ

294 昭和9年4月25日 在中國堀内臨時代理公使より
広田外務大臣宛(電報)
ライヒマンの活動、棉麦借款、中國建設銀公
司などにつき唐有壬より現状説明について
第三四九號(極祕)

上海 4月25日後着
本省 4月25日後着

唐有壬ハ先般來湯ノ腫物ヲ手術シ當地ニテ臥床靜養中ナル
カ廿四日其求メニ依リ訪問シタル有野ニ對シ今回外務省カ
聲明ヲ發シタル動機ハ日本側カ支那ニ於ケル聯盟ノ援助等
ヲ餘リニ過大視シ始終疑ヒノ眼ヲ以テ見居ルコト及最近ノ
銀公司設置問題等ニテ刺戟ヲ受ケタル爲ナルヤニ觀察セラ
ルル次第モアリ此ノ際右聯盟側援助事業等ノ現狀ヲ打明ケ
御話シスルニ付有吉公使ニ御傳達セラレタシトテ大要左ノ
通内話シタル由(公使ニ報生濟)

一、聯盟側派遣ノ「ライヒマン」ハ「ジュウ」系ノ獨逸人ニ
シテ其部下獨逸人七人モ同シク「ジユウ」系ノ者ナルカ
爲メ裏ニ獨逸側ヨリ抗議的申出ヲ受ケタルコトアリ又伊
國人顧問ニ付テモ伊國側ヨリ其資格不充分ニテ代表的人

物ニアラストテ不満ヲ申出來リタル位ナルカ實際此等配屬顧問ハ大部分餘リ學問モ無ク且前顯獨逸人顧問ノ如キ英語ノ力乏シキ爲不便鮮カラス能率モ擧ラサル狀態ニアリ一例トシテ先般蔣介石カ共匪討伐及區域ノ善後措置ニ付「ラ」ニ起案ヲ命シ多數ノ顧問連南昌ニ赴キ調査ノ結果答案ヲ提出シタルカ當時蔣ハ其幼稚ナル答案ヲ見テ大笑ヒシタル由ニテ(蔣ノ直話ナリト言フ)今ヤ政府部内ニ於テ毛彼等ニ對シ信用ハ日二日ニ薄ラキツツアリ最近右獨逸人顧問ノ内三名ヲ解傭ニ決定シ居リ一面孔祥熙モ經濟委員會ノ經費支出ヲ減リ又各顧問ノ俸給減額ヲ計畫シ居レリ

三、右ノ如キ次第ニテ「ラ」ハ先般出發ニ際シ再ヒ歸任シ得ルヤ否ヤニ付多少懸念ヲ感シタルモノト見工頻リニ各方面面ヲ通シ蔣ヨリ速ニ歸任ヲ望ム趣旨ノ挨拶ヲ受ケント運動シタルモ蔣ハ御苦勞タツタトノ簡單ナル電報ヲ發シタルノミナル爲「ラ」ハ至極氣マツキ思ニテ出發シタル由ナリ

尙「ソルター」ハ支那ノ複雜ナル事態ニ驚キ本人ニ於テ匙ヲ投ケ辭意ヲ申出タル儘出發セリ

四、一方事業其ノモノモ計畫餘リ進捗セス即チ棉麥借款ノ中小麥四百萬米弗ハ買値ヨリ三割安ニテ買上タル爲結局百二十萬米弗ノ損失ヲ生スル等ノ始末ニテ棉麥借款ニ依リ政府ノ手取ハ大約四千餘萬元ニ過キス然モ其ノ中幣制改革ニ振當ノ千數百萬元ハ既ニ他ニ流用シタル爲(極祕ナリト附言ス)此ノ方ノ委員會ハ計畫モ無用ナル狀態ナリ又棉花栽培統制ノ方ハ資金不足等ノ爲計畫樹タストテ最近主席委員陳光甫ヨリ辭任申出アリ其ノ他水利事業西北開發等何レモ掛聲ノミニテ資金不足ノ爲計畫倒レトナル懸念アリ(鐵道事業ノミハ比較的實現性アリト附言シ居タリ)

四、銀公司ノ設立ハ素々宋子文ノ計畫ニシテ宋カ自己ノ勢力扶植ニ利用セントスル腹ナルヤニ認メラレ居ルモ政府トシテハ宋ノ面目ヲモ顧慮シテ一應同意シタルカ孔祥熙モ餘リ乘氣ナラス從テ其ノ目的トスル各國返還ノ庚子賠款取扱運用ハ兎ニ角トシ之ニ依リ外資ノ輸入ヲ計ルカ如キハ到底望無カルヘシ現在米國ハ頻リニ舊債務ノ整理ヲ督促シ之カ整理迄ハ一文モ貸サスト申出テ居リ又英佛兩國モ債務整理ヲ主張シ夫レ迄ハ材料ハ貸スモ現金ハ貸サス

序ヲ以テ貴電第一四一號ノ御趣旨ヲ體シ累次ノ往電ノ通り我方ノ立場ヲ説明シ特ニ支那ノ軍用飛行機購入飛行機工場設置說(往電第三三九號)武器ノ購入軍事顧問ノ傭入等ニ關

シ警告シタル處唐ハ左ノ通り辯解シ居タル由ナリ

(一)杭州飛行場(既ニ南昌ニ移轉)ニ米國人教官有ルハ事實ナルモ一二ノ者ノ外技術未熟ニシテ機體ノ破損續出免角成績舉カラス最近航空協會ヨリ外國機ノ購入ヲ止メ南昌ニ飛行機工場ヲ設ケ同時ニ努メテ自國ノ技術員ヲ養成使用ス可シトノ建議有リタルモ工場設置ニ決シタルヤ否ヤ未タ聞カス

(二)西南側カ安南ヨリ武器ヲ購入シタル事ハ政府ニテ事前ニ知ラス差止メ得サリシヲ遺憾トシ居レリ

(三)軍事顧問ハ獨逸人多キ處右ハ獨逸人力俸給モ安ク政治的緣故ヲ生スル虞少ナキ爲ナルカ右ハ其ノ權限等ニ付常ニ之カ制限ニ努メツツアリ

アリ

唐ハ右談話ノ後沈觀鼎ノ公使ニ對スル談話(往電第三一三號)ト同様汪兆銘ニ於テ我方ノ聲明ヲ遺憾トシ居ル旨ヲ附言シタル由ニテ(唐ノ前記談話ハ汪ノ内意ヲ受ケテ爲サレタルモノナルヤニ感セラレタル由)右ニ對シ有野ハ

295 昭和9年4月30日 在シカゴ仲内(憲治)領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

通貨政策専門家の米国人口ジャースが廬山に
おいて銀問題に関する中国側会議に参加した

との米国紙報道について

シカゴ 4月30日後発
本省 5月1日前着

第二二號

廿九日上海發「シカゴ、トリビューン」「ジョン、パウエル」電報ハ「ルーズベルト」大統領「ブレイン、トラスト」中ノ貨幣通タル「ザエイムズ、ハーヴエイ、ロウデヤーズ」教授カ蔣介石ノ本陣 Kuling ニ於テ會議ニ參加シ居リ其ノ内容ハ財政經濟問題殊ニ銀ニ關スル米國ノ通貨整調案ニ對スル支那ノ反響ニ關スルモノナルコト代表ハ「ロウデヤース」及蔣ノ外孔財政部長及其ノ技術顧問(内米人數名)米公使「ジョンソン」米大藏省ニ關係アル「エドワイン、アーノルド」「ロバート、ランドマン」及「ディクソン、リーヴズ」教授等ニテ宋子文ハ不在ナル旨並ニ「ロウデヤーズ」ハ三週間モ調査シ且官憲ト接觸シ居ルモ新聞記者トノ會見

ヲ避ケ居ル旨及日本ハ「ロウデヤーズ」ノ行動ヲ監視シ居ル旨ヲ報セリ

在支公使ニ轉電アリタシ
在米大使ヘ郵送セリ

296 昭和9年5月(3)日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

米中間銀借款説や天羽情報部長非公式談話などに関する在中国米国公使内話について

南京 発
本省 5月3日後着

第四三四號

二日上流方面ヨリ來寧セル米國公使「ジョンソン」ト本三日會見時局談ヲ試ミタルカ其ノ内参考トナルヘキ點要領左ノ通
一、蔣介石ニ「カーテシーコウル」ヲ爲シタル爲(九江發大臣宛電報第三八號)殊ニ日本側ヨリ種々ノ噂報道セラレ居ル趣ナルカ廬山見物ヲ爲シタル迄ニテ何等要談アリタルニハ非ス(一日「マクダニエル」ハ本官ニ對シ米支間ニ一

297 昭和9年5月(7)日 在中国若杉公使館(等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

華北問題、連盟の对中国援助問題、天羽非公式談話などに関する在中国英國公使内話について

北平 発
本省 5月7日後着

第二〇五號

⁽¹⁾ 英國公使「カドガン」近日南下ノ由聞込ミタルヲ以テ其ノ出發前支那時局ニ對スル意見交換ノ爲本七日同公使ヲ訪問談話ノ要點何等御参考迄電報ス

一、同公使ハ本月十日當地發南京ニ直行シ二十二、三日頃歸任ノ豫定ニテ上海へハ赴カス「タイチマン」參事官外一、二書記官隨行ノ筈

二、本官ヨリ同公使カ最近南京訪問ノ上當地着任後短時日ナルニ再ヒ南行サルハ何等急用ヲ生シタル次第ナリヤト
問ヒタルニ對シ特ニ重要ノ要件ヲ生セル次第ニモアラサ
ルモ若干用向アリ例ヘハ支那關稅率ノ高率ニハ英國商
人モ困リ居ルニ付稅率修正方交渉モ其ノ一用件ニテ此ノ
用ニ關シテハ南京須磨總領事トモ篤ト打合ス考ナリト語

~~~~~

見物ノ上歸平ノ筈  
支、北平へ轉電セリ

385

レリ

三、本官ノ間ニ對シ同公使ハ治外法權ノ問題ハ支那側ヨリ申出アル次第ニモ非ス又當方ヨリ申出ツヘキ時期ニモ亦事態ニモ非スト思考スト答ヘタリ

四、北平公使館南京移轉ノ尊アル處如何トノ問ニ對シ支那現(時)ノ事態ハ公使館移轉ノ問題ヲ考慮スルニハ尙早ナリト答ヘタリ(過日「タイチマン」參事官ト會談セル際本問題ヲ尋ネタル處笑ツテ答ヘサリシカ又米國公使館「ガウス」參事官ト會談ノ際米國側ノ意図ヲ尋ネタル處同氏ハ米本國ニテハ公使館ヲ南京ニ移轉セサルニ對シ相當非難アルモ目下財政不如意ニテ南京ニ公使館新築ノ費用ナキ故如何トモ致シ難シト答ヘ居タリ)

五、<sup>(2)</sup>同公使ハ黃郛政權カ日本ノ態度ニ依リ窮地ニ陥リ延ヒテ北支ノ不安ヲ釀スコト無キヤト問ヒタルニ付本官ヨリ黃郛南下ノ事情ヲ説明シ黃カ不日歸任ノ上誠意ヲ以テ諸懸案ノ解決ニ當ルモノト期待シ居ルヲ以テ何等不安ヲ生スル惧無カル可シト答ヘタル處同公使ハ自分等モ北支ノ天地カ成ル可ク平穏ニ治安維持サレンコトヲ希望シ居レリト述ヘ唯所謂停戰協定ニ附隨スル日支間ノ申合ナルモノルモノト察セラレル)

セリ

六、國際聯盟ノ對支技術的援助ハ眞ニ支那ノ建設ヲ願フ外他意アル次第ニアラサルモ其ノ支那ニ派遣セル委員ノ人選(「ライヒマン」ノ如キ)ニ付テハ遺憾ノ點鮮カラサリシ爲日本ノ反感ヲ招キタルハ頗ル遺憾ナリトテ聯盟ノ援助ヲ辯護セリ(同公使カ從來英國外務省聯盟局長タリシ行懸上今後ト雖モ聯盟ノ對支事業ニハ相當好意的支持ヲ與フルモノト察セラレル)

七、同公使ハ特ニ過般ノ本省係員非公式聲明ニ付言及セサリシモ本官ヨリ進ンテ右聲明ノ事情ト眞意ヲ累次御來電ノ御趣旨ニ依リ説明ヲ加ヘ近來外國人ニシテ支那ノ實狀ヲ無視セル援助ヲ爲シ延ヒテ日支關係ニ累ヲ及ホスモノアル事實モ亦該聲明ノ一動機ヲ爲セル旨ヲ附言セル處同公使ハ反日的援助ノ愚ヲ敢テセサル國少クトモ世界ニ一國アルコトヲ承知アリタシトテ暗ニ英國カ賢明ナル態度ヲイツクノモノト承知シ居リ其ノ字句ハ兎ニ角其ノ趣旨

ノ根抵<sup>(根立)</sup>ニ東洋治亂ノ判定權ヲ日本ノミカ主張セントスル英國大使ヨリモ來電ニ接シ居ル處同聲明ハ「オーセンテ

カ公表セラレ居ラサル爲其ノ内容カ如何ナル事項ヲ含ミ

居ルヤ不明ナルヲ以テ世間ニハ危惧ノ念ヲ抱ク者アリト若(干)嫌味ヲ述ヘタルニ付本官ヨリ右申合ハ一種ノ「ゼンツルマン、アグリーメント」ニ類スルモノニテ日本官憲ト支那側トノ相互信賴ニ基ク約束ニ過キシテ日本側ニ於テハ既ニ全部ノ義務ヲ履行シタルニ拘ラス支那側ニ於テ通車、通郵カ何等新國家(滿洲國)ノ承認ヲ肯アルニ過キサル旨ヲ説明セル處同公使ハ通車、通郵問題ハ來週壽府國際聯盟委員會ニテ討議ノ筈ナルニ付同委員會カ事實上ノ通車、通郵カ何等新國家(滿洲國)ノ承認ヲ肯定スルモノニ非サル儀ヲ決議スルニ於テハ右通郵問題ノ解決ニ便利ナル可シト語レリ

六、<sup>(3)</sup>蔣介石權力下ニアル南京政府カ支那統一ヲ遂ケ對外國全責任ヲ負ヒ得ルニ至ル可キヤノ問ニ對シ同公使ハ支那ノ統一ト治安ノ維持ハ頗ル難事業ナルモ左レハトテ之ヨリ優レタル何人カ出テ得ルヤモ望無キ今日切メテ數省ニテモ其ノ治下ニ收メ居ル現政府ヲ尊重スルヨリ外無キニ非スヤト答ヘ貴國ハ支那カ統一セラレ強國トナルコトヲ嫌忌シ居ル由ナレハ支那ノ現狀ニハ異存無キ筈ナリト戲談リ

ヤニ疑ハル節アルヲ遺憾トシ此ノ點ハ中外ニ於テ極メテ重大視シ居ル所ナリト淡白ニ述ヘタリ

九、右諸問題ノ談話ヲ通シ同公使ハ極メテ本邦ノ立場ニ理解ヲ有スル口振ニテ唯腹藏無ク其ノ所見ヲ述ヘタルニ過キサルモノノ如ク且別レニ臨ミ同公使ハ今回赴任ノ際本國政府ヨリ特ニ日英ノ支那ニ於ケル利害關係類似ノ點ニ鑑ミ日本側ト密接ノ接觸ヲ保ツ様内意ヲ受ケ居ル旨明言セリ

支、南京、滿ヘ轉電シ、天津ヘ暗送セリ

~~~~~

298 昭和9年5月12日 在獨國永井(松三)大使より
広田外務大臣宛(電報)

獨國航空大臣の説明にも鑑みゼークトなど中國の獨国人軍事顧問招聘問題については事を荒立てないよう意見具申

ベルリン

本 省 5月12日前着

発

第九號

一、練習艦隊司令官當國來訪ニ際シ七日本使ノ催シタル宴會

ノ際航空大臣兼「プロシヤ」總理「ゲーリング」ハ特ニ本使ニ話シ度キ重要事アリトテ他人ヲ離レテ本使ト談話シタルカ要點左ノ如シ

何等統一無ク國家ト云フコトヲ得サル支那ニ軍人又ハ飛行機ヲ供給スルカ如キハ全ク意味ヲ爲サス自分ハ資本家カ私利ノ爲斯ル企圖ヲ爲スニ反対ナリ而シテ現ニ「ゼクト」ノ渡支ハ自分國防大臣及海軍長官ハ政府部内ニ於テ極力之ヲ非議シタル位ナリ然レトモ「ゼ」ハ優秀ナル參謀將校タルハ事實ナルモ最早言ハハ一個ノ老將軍タルニ過キス旁鳥合ノ支那軍隊ニ左シタルコトヲ施シ得ル筈無ク決シテ重キヲ置クニ足ラス自分ノ此等考ハ外務大臣モ好ク承知シ居レリ元來支那ニ對スル蘇聯邦共產主義ノ手ヲ防遏シ得ルハ日本ノミナル處獨逸ハ歐洲ニ對スル共產主義ノ防壁タラントシ居リ之カ爲東洋ニ於ケル日本ノ協力ヲ必要トスルモノニシテ從テ日本カ亞細亞大陸ニ地歩ヲ固ムルハ獨逸トシテ歡迎セサルヲ得ス蘇聯邦カ歐亞兩大陸ニ強國タルカ如キコトハ許サレス獨逸モ何時カハ東方ニ進展セサルヲ得サルヘシ自分ハ獨逸ノ國民性國情殊ニ人口稠密ノ狀態及對外的地位等ト思ヒ合セ日本ヲ最モ

生存上ノ利益トニ適合シテ國家ノ隆興ヲ計ラントスルニ對シテ政治上及經濟上困難ヲ受ケ居ルコトヲ指シタルハ明カナル處斯ル狀態ニアル國カ大ナル誤解ヲ受ケルハ獨逸ノ例ノ教ユル所ナリト述ヘ日本ノ對支政策聲明ニ關聯シ關係大國ト行ハレタル談話ノ結果トシテ日本ハ東亞ニ於ケル自己ノ任務ヲ平和ノ保障者タルニアリトシ從テ凡ユル方法ヲ以テ此ノ任務ヲ盡サントスルモノナルコトカ更メテ確認セラレタリ此ノ意思ノ存スル限り日本ハ現在及將來ノ總テノ難關ニ處スルコトヲ得ヘシト述ヘタリ
三(3)思フニ支那ニ於ケル獨逸軍事顧問カ如何ナル工作ヲ爲シツツアリヤハ事實ニ付注意スルヲ要シ曩ニ申進ノ通場合ニ依リ當國政府ノ注意ヲ喚起ス可キハ勿論ナリト雖當國最高有力筋ノ意向前記ノ通ナルト共ニ當國側トシテ我國ト良好關係ヲ維持セントスル努力ヲ現シツツアル次第付我方トシテモ軍事顧問等ノ問題ニ付徒ラニ事ヲ荒立テス在支我出先官憲ニ於テ直接之等軍事顧問ト接觸シ本國ノ意ノ存スル處ヲ反省セシムルニ努ムルコト適當ト思料ス

好ク理解スルモノナルト共ニ日本國民モ「ナチ」ノ獨逸ニ大ナル理解ヲ有シ居ルコトヲ信ス自分ハ閣議其ノ他凡ユル機會ニ日本ノ味方ナルコトヲ確言ス云々

二、⁽²⁾「ゲーリング」ハ「ゲツペルス」ト併セテ「ヒツトラー」ノ下ニ於ケル兩巨頭トシ「ゲツペルス」カ寧ロ社會主義的色彩ヲ現ハシ居ルニ對シ「ゲーリング」ハ強ク國民主義ノ傾向ニアリ前記談話ハ同氏本來ノ思想ヲ現ハセルモノニシテ「ナチ」内部ノ有力ナル意見トシテ重要性ヲ有スルモノト言ハサルヘカラサル處右談話ハ往電第七八號外相ノ談話トモ好ク符合シ居レリ而シテ對支政策ニ關スル本省非公式聲明ハ右外相談話ノ數時間後當地新聞ニ傳ヘラレタルカ之等事項カ閣議ニ於テ議セラレタルヘキハ勿論ナルヘク外務省半官論說ハ松下司令官カ日獨協會及日本會歡迎會ノ席上爲シタル演說ニ於テ日本ハ戰前ノ獨逸ト類似ノ地位ニアリト述ヘタルニ關聯シ日獨ハ後レテ大國ニ任シタル國トシテ同様ノ問題ト戰ハサルヘカラサルコトヲ指摘シタル後同司令官ハ日本國民カ其ノ能力ト

299 昭和9年5月14日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

國際連盟对中国援助問題に関するライヒマン報告書をめぐり在中国英國公使と意見交換について

南京 5月14日後発
本省 5月14日後着

第四八〇號

十一日「カドガン」ト會見ノ際「ライヒマン」報告ノ感想ヲ尋ねタル處「カ」ハ大體曰ラ通シタルノミナルカ支那モ右ニ依リ教ヘラルルコト多カルヘク開發ノ「ライン」ハ萬遍ナク示サレ居レリト思考スト支持的態度ヲ示シタルニ付一、本官ヨリ此ノ機會ヲ捉ヘ右ハ從來發表セラレタル此ノ種報告例ヘハ「ケメラ」報告等ニ比シ見劣リスルコト甚タシク

(一)、三關聯ナキ事實ニ基キ全體ヲ抽象的理論的ニ推斷セル傾向アリ
(二)其ノ「プロジェクト」ニ新味ナク全然「ミーデイオーカー」ナリ

(三)外人専門家ノ支那ニ於ケル研究カ到底満足ナル能ハサ

ル理由ヲ第十一章冒頭ニ記載シアリ「ラ」自ラ其ノ報

告ノ無責任ナルヲ告白シ居レリ

四同章四ノ如キハ完全ナル感傷論ニテ支那ヲ知ラサルモノノミ胡魔化シ得ヘシ

(五)⁽²⁾「アネクセス」ニ於テ全國經濟委員會其ノ他ニ關スル諸法理等ヲ掲載シ居ルカ右ハ概々死法ナレハ之ニ基ケル結論モ實際上適用シ得可カラサルコト知ルヘキノミ

(六)公平ナル技術的報告ナル可キニ拘ラス全体ノ「ムーハ」

反日的ナリト述ヘタルニ

〔「カ」ハ如何ナル根據ニ基キ理論的ニ推斷セリト言ハル

ルヤム反問セルヲ以テ本官ヨリ例へハ支那革命ニ付

Profound transformation ハ々々 Emancipation from an obsolete internal political regime ナリト言ヘル如キ(第十一章)其ノ例證ナリト答へタルニ更ニ(六)ノ反日的ナリトハ如何ナル點ヲ指サルルヤト尋ね來レルヲ以テ全体ノ「ムーハ」トシテ然ルノミナラス例へハ Japanese forces opened hostilities in Mukden(第一章)ノ如キ其ノ一例ナリト指摘セル處「カ」ハ一々傾聽シ居タリ

支、北平へ轉電セリ

300 昭和9年5月22日 在南京須磨總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

英國IA航空路線の上海への延長および中國航空公司路線の香港への延長には応じないと

の朱家驛内話について

南京 5月22日前発
本省 5月22日前着

第五二七號(極秘)

往電第五一七號ニ關シ

本二十一日序ヲ以テ先ツ「ホルマン」ニ質シタル處「インピリアム、エーア、ウェイト」ハ昨年「サー、ジョン、ヒギンス」及「ソムヒル」大佐來支ノ際(客年在支公使發閣下宛電報第四五一號)IAノ濠洲航空路ノ分線トシテ新嘉坡ヨリ差當り香港迄ノ航空路開設ノ爲IAノ一小會社ヲ(subsidiary line レシテ Siamese or eastern air line ナルモノヲ開ク計畫)設立シ無理セハ新嘉坡ヨリ香港迄無着陸飛行ヲ爲シ得ルモ出來得レハ雷州ニ寄航方話合セルモ支那

側ノ承諾スル處トナラス其ノ儘トナリ居ル處一方支那側ハ中國航空公司ノ上海廣東航空路ハ之ヲ香港ニ結付クル事ニ依リ旅客郵便共非常ナル繁榮ヲ來スヘキ實情ナレハ之ヲ實現セシメ度希望ヲ以テ目下慎重考慮中ナル旨聞及ヒ居レリ

ト内話スルニ止マリシカ本二十一日朱家驛ニ面會ノ際當り見タル處朱ハ大体客年在支公使發閣下宛電報第四五一號ノ

一二及同第五〇一號ノ趣旨ヲ簡單ニ説明シタル上實ハ極秘ナルカ中國航空公司ノ上海廣東線ヲ香港ニ接續セシムヘク客年春英國側ニ當リ見タルヲ機トシテ英國側ハIA濠洲航

空路ノ新嘉坡香港線ヲ上海迄延長方執拗ニ主張シタル譯ナルカ之ヲ認ムルハ諸般ノ關係上支那ニトリテハ重大問題ナル爲之ヲ退ケ同時ニ中國航空公司ノ上海廣東線香港立寄方モ引止メ爾來話ヲ打切居ル次第第二テ先ツ本件ハ茲暫ク問題トセサル心組ナリト内話シ居タリ
支、北平、廣東、香港、滿洲へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

301 昭和9年5月25日 在南京須磨總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

英國IA航空路線の上海延長問題の現状に關する在中国英國商務參事官説明について

南京 5月25日後発
本省 5月25日後着

第五五五號

往電第五二七號ニ關シ

二十四日「ビール」來訪ノ際「ビ」ハ不確乍ラト前提シ眞茹無電臺關係ノ英國人技師(同電臺ハ主トシテ英國カ設置)セルコト御承知ノ通ヨリノ聞込ニ依レハ貴官ハ日支無線聯絡成立ニ迄漕付ケラレタル由ナルカ事實ナリヤト尋ねタルヲ以テ本官ヨリ技術上ノ話合ニ橋渡シセル迄ナルカ二十五日發表ノ筈ナリト述ヘタル處「ビ」ハ技術的ニモセヨ本件ハ日支關係ノ重要ナル一進展トシテ注目セラル處序ニ伺ヒ度キハ日本側カ天津青島上海等ト航空聯絡ヲ行フ旨計畫中ナリトノ新聞報道ハ何等根據有リヤノ點ナリト尋ねタルヲ以テ本官ヨリ絶対ニ無シト答へ却テ冒頭往電ノ趣旨ヲ「ビ」ニ確メタル處「ビ」ハ客年來支セル「ソンヒル」

大佐ハ I.A.トハ事實上全然關係無ク飛行機賣込ミ「ブロー

カ」トシテ「ブイカース、アンド、アームストロング」

ヨリ委囑サレタルニ過キサルモノナルカ I.A.ノ代表者顔ヲ
シテ蔣介石及朱家驥等ニ「アプローチ」セル爲支那側ノ心

證ヲ害シ香港ヲ中國航空公司ノ「ライン」ニ接續セシメン

トセル支那側最初ノ計畫モ之ヲ復活セシメ得サルニ至レリ
現在ハ I.A.ノ代表者モ居ラス交渉ハ全然停頓ノ状態ニ有リ

ト述ヘ居タリ 尚其ノ際「ビ」ハ米國カ支那ノ「エアー、コントロール」

ヲ行ヒ居ルハ日本ノ所謂東亞ニ於ケル special role ヲ害ス
ルモノト思考スト述ヘ居タリ 支へ轉電セリ

尚其ノ際「ビ」ハ米國カ支那ノ「エアー、コントロール」
ヲ行ヒ居ルハ日本ノ所謂東亞ニ於ケル special role ヲ害ス
ルモノト思考スト述ヘ居タリ 支へ轉電セリ

302 昭和9年5月26日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

英國—A航空路線の上海延長を阻止したいと
の中国航空公司側の強い意向について

南京 5月26日後発
本省 5月27日前着

(欄外記入)
マクダネルトハ誰カ?

(「マクダニエル」ハ紐育タイムス社ノ南京通信員(桑島重細亞
局長印))

303 昭和9年6月1日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

ライヒマン報告に落胆したとのモネの感想について

南京 6月1日後発
本省 6月1日後着

獨国航空省當局より我が方駐在武官への独中
合弁航空機製造会社設立に対する我が方意向
照会につき対応振り請訓

第五八三號 甘九日上海ニテ「モネー」及「ドラモンド」ト會見ノ際本

官ヨリ往電第四八〇號(「カトガン」)ニ對スルト同様ノ趣旨ヲ述ヘタル所「モ」ハ同報告ハ平凡ニテ精讀ニ堪ヘサル

ヲ以テ結論ヲ研究シタルノミナルカ何等見ル可キ具體案指示セラレ居ラス落膽セリ
自分ハ五年前ヨリ「ラ」ト親交アルカ日本側ハ「ラ」ヲ人物以上ニ有名ナラシメタル感アリ同人ハ波蘭「ジユー」トシテ虐ケラレタル經驗モアリ強國ニ對シ反感ヲ有スルハ事

實ナルモ政治的ニ效果アル策動ヲ行フ能力ヲ有スルモノニ
カ」トシテ「ブイカース、アンド、アームストロング」

第五六二號 往電第五二七號ニ關シ(日支航空連絡ノ件)
(欄外記入) 本二十六日來訪セル「マクダネル」ノ内報スル所ニ依レハ
客年公使發閣下宛電報第四五一號ノ通I、A側ニテ香港上
海間「ライン」開設ノ野心アルヲ看取シタル中國航空公司
側ニ於テハ名稱ハ同公司ノ「トラフィツクマネージヤー」
ナルモ事實上同公司ノ實權者タル W.L.Bond カ如何ナル
條件ヲ以テシテモI、Aニ香港上海間「ライン」ヲ開設セ
シメサル肚ヲ決メ自下賜暇歸米中ノ同人カ十月歸來ノ曉ニ
ハ現在ノ上海、廣東「ライン」ヲ香港ニ接續方英國側ト折
衝ヲ開始スル筈ニテ結局ハ右成功セハ香港立寄ニ依リ同
「ライン」ノ利益ヲI、Aト或種ノ率ニ依リ分配スルコト
トシテI、A上海延長ノ計畫ヲ却クルコトトナルヘシト豫
テ「ボンド」ヨリ聞及ヒ居ルトノコトナリ
支、北平、廣東、滿、香港へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

トシテI、A上海延長ノ計畫ヲ却クルコトトナルヘシト豫
テ「ボンド」ヨリ聞及ヒ居ルトノコトナリ
支、北平、廣東、滿、香港へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

トシテI、A上海延長ノ計畫ヲ却クルコトトナルヘシト豫
テ「ボンド」ヨリ聞及ヒ居ルトノコトナリ
支、北平、廣東、滿、香港へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

(イ)、資本金三百萬馬克

(ロ)、「ユ」社ハ主トシテ技術、材料ヲ提供シ支那側ハ資本

ヲ出資スヘク外國資本ヲ加ヘス

ハ、「ユ」社ハ右會社ニ一九三四年ニ既製飛行機數台又三年ニ至リ全部同會社ニテ製作スル豫定ナルカ其ノ製作

ハ旅客機ニシテ主トシテ「ウンカース」五二ナリ

而シテ右ハ暫定契約案ニ過キサル處獨逸トシテハ至急契約ヲ締結セサレハ米國ニ取ラル惧アリ「ユ」社ハ約一

週間前代表者ヲ支那ニ向ケ急行セシメタルカ獨逸當局トシテハ對支政策乃至對日態度ニ付テハ航空大臣モ大使ニ述ヘ居ル通ニテ(往電第九九號御參照)本件會社ニ付テモ

軍用飛行機ノ製作ヲ認可セサル次第ナル處獨逸當局トシテ本件契約ニ許可ヲ與フルニ付テハ豫メ日本ノ意嚮ヲ承知シ度ニ付何分ノ内意御回示アリタシ云々

(二)、右ニ對シ海軍武官ハ我對支政策聲明及航空大臣其ノ他ノ從來ノ言明等ヲ指摘シ此ノ際急ニ斯ル事項ヲ日本政府

ニ持出スハ兩國ノ爲ニ面白カラサル處自分ハ近ク歸朝スルヲ以テ歸朝ノ上篤ト政府ニ説明スヘク夫レ迄問題ヲ進行セシメサルコトヲ希望スル旨非公式ニ先方ニ通シタル

305

昭和9年6月16日 在(ニューヨーク)沢田(廉三)總領事より

広田外務大臣宛(電報)

米国の對中國政策および對中國四國借款團に

おける米國側銀行團解消問題につきラモント

の内話について

ニュー・ヨーク 6月16日後発
本 省 6月17日後着

第八九號

齊藤大使ヨリ

十五日「ラモント」ヲ往訪シタル處大體紐育總領事發貴大臣宛第八四號近衛公爵同席ノ會談ヲ繰返シタル後

(一)自分ハ豫テ「ル」大統領ヨリ支那問題ニ付懇談シタキヲ以テ來華セヨトノ申出ヲ受ケ居レルモ今日迄之ヲ實行スルコトヲ躊躇シ居リタル理由ハ大統領ハ東洋ノ知識無ク例へハ棉麥借款ノ如キモノスラ成立セシメ居タルヲ以テ今少シク時期ヲ待チ事實ニ依リテ支那ノ實狀ニ目醒メ來レル頃ヲ見計ヒ懇談シ度キ考ナリ現ニ棉麥借款ニ付テハ豫メ自分ノ意嚮ヲ求メ來ラス而シテ其ノ求メ來ラサリシ理由ハ自分カ之ニ反對スルナラントノ懸念アリタルニ依ルモノナルコトハ「ホーンベック」ヨリ内密ニ聞キタルコトアリト語レルヲ以テ大要「ハル」本使間私的會談ノ筋合ニテ目下日米關係ヲ改善スル根本義トシテハ東洋ニ於ケル日本ノ立場ヲ米國カ公ニ認識シ支那ヲシテ濫リニ米國ヲ利用シテ日本ヲ抑ヘントスルカ如キ策ヲ弄スル餘地無カラシメンコトニ有ルコトヲ語レリ「ラモント」ハ自分モ全然同意見ナリ英國ヨリ歸リタル後(本月二十日渡英數週間ヲ歐洲ニ過ス)其ノ

處先方ニ於テハ本件ハ急ヲ要スト爲シ尙右會社カ將來製作スヘキ飛行機ノ型ニ付テハ日本側ニ總テ内示スルモ可ナル旨漏ラシ越セル趣ナリ

(三)、惟フニ本件申出ニ付テハ獨逸トシテ我國ノ支那ニ對スル立場ヲ極メテ尊重シ居ルモノト云ハサルヘカラサルト共ニ本計畫ニ關シ獨逸カ第三國ト競争ノ立場ニアリト爲ス以上我方トシテ第三國ノ計畫ヲ阻止シ得サル限り獨逸ニ不同意ヲ述フルコト困難ナルヘキノミナラス東亞ニ特別ノ政治的利害ヲ有セサル獨逸ノ本計畫實行ハ我方ニ取リ最モ害少キモノト認メラルニ付テハ是等ノ點篤ト御考量ノ上本件回答振至急御回電アリタシ

何レノ途本問題ハ自分カ倫敦ニ赴キタル上應酬スル事トナ
ルヘク其ノ際ハ松平大使ト腹藏無ク御相談スル積リナリト
述ヘタリ

英ヘ轉電アリタシ

英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

米ヘ暗送セリ

306 昭和9年6月19日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

对中国四国借款團米國側解消問題に關し米國
國務省は日本との協調を重視し現状維持を希

望の旨ラモント通報について

ワシントン 6月19日後発
本 省 6月20日前着

第三三四號(極秘)

紐育發貴大臣宛電報第八七號ニ關シ(對支借款團問題)
十八日在紐育「ラモント」ヨリ電話ニテ本日「ホーンベツ
ク」ト電話ニテ話シタル結果國務省ニテハ借款團米國「グ
ループ」ノ解消ヲ欲セス當分其ノ儘トシ置クコトヲ希望ス

307 昭和9年6月20日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

獨中合弁の航空機製造會社設立問題および中
國における航空事業に關し獨国外交官と意見
交換について

南京 6月20日後発
本 省 6月20日後着

第六九八號(極祕)

獨發貴大臣宛電報第一一七號ニ關シ
本官十九日「ラウンテンシユラガ」(當地獨逸代表者)ト
支那ノ現狀等ニ付雜談ノ際冒頭往電ノ趣旨ニモ觸レタル處
會談要領左ノ通

一、「ラ」ヨリ實ハ「ユンケル」代表「シユテルツ」(約二十

ヘキ問題ニハアラサルヲ以テ日本側ノ見解テモアラハ自
分ヨリ公使及政府ニ取次キ度シト申出テタルヲ以テ

三、⁽²⁾本官ヨリ私見トシテ「ユンケル」ハ純然タル商業的企劃
トシテ本工場ヲ成立スルトスルモ行々ハ「ルフトハンザ」
ト併行若ハ共同シテ支那ノ「エア、コントロール」ヲ試
ミル計畫ニアラスヤト突込ミタル處「ラ」ハ多少周章ノ
色ヲ見セ乍ラ成程疑問ハ尤モナルモ自分ノ觀測ニテハイ
「ユンケル」ハ工場ニテ「ルフトハンザ」ハ事業會社ナ
レハ之カ共同ハ相當困難ナル可シ(「ユンケル」ハ先年
蘇聯ト蘇聯國內航空事業ニ付契約ヲ爲シタルモ失敗ラ重
ネ結局莫斯科工場ヲモ閉鎖シタル程ナレハ今更支那ノ
「エア、コントロール」ニハ手出シセサル可シ)又一九
三〇年「ユンケル」社ノ「カウマン」カ當方面ニ出張ノ
節支那側ニ航空聯絡ノ話ヲ持込ミタルモ失敗セル後ヲ受
ケテ「ルフトハンザ」カ乗リ出シ來リ獨逸政府(交通省)
ノ補助アル故ヲ以テ支那側ヲ說付ケ歐亞航空公司ヲ捏チ
上ケタル經緯モアレハ旁「ユ」「ル」兩社ノ提携ハモノニ
ナラサル可シト答ヘタリ

四、⁽³⁾更ニ本官ヨリ合同シ得ストスルモ新疆省變亂ノ爲非常ナ
中国をめぐる列国との関係

其ノ理由ハ海軍問題等ヲ控ヘ日本トノ協調重要ナル此ノ際
日本トノ從來ノ提携ヲ打切ルカ如キハ其ノ影響面白カラス
ト云フニアリト内報シ來レリ

英ヘ轉電シ、紐育ヘ暗送セリ

英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

未タ何等ノ返電ニモ接シ居ラス何レニセヨ早急決定シ得

トシテハ約二百萬ノ現銀ヲ要スル譯故ニ現ニ話ハ進行中
ナルモ之カ成立ニハ尙相當ノ時日ヲ要スル一方葛敬恩カ
航空署長時代ニ伊國某會社トモ同様ノ工場設立方ノ話合
ニ入リタルコトモアリ支那トシテ獨伊何レニモ條件好キ
方ニ着カントスル下心ナレハ「ユ」社ノ契約カ必ス纏マ
ルモノトモ定マリ居ラス

三、自分買入ノ米機ハ何レモ一機十二、三萬元ニ上ル處自分
就任以前航空ニ付テハ全然素人ナル陸軍關係者カ毛邦初
ノ指揮ニテ買入レタルモノニ比スレハ幾分性能優レ居レ
ルモ要スルニ第一流ノモノニハアラス甚シキハ中古ノモ
ノモアリ徐々獨逸カ其ノ他ノ國ヨリ求メントスル計畫モ
樹チ居ル次第ナリ

三、目下杭州ニ於ケル飛行學校、南昌ニ於ケル飛行場建設(新
設ニハアラス古キモノニ修理ヲ加フル程度)其ノ他「ガソ
リン」等月々合計百萬元ノ支出ヲ要シ甚シキ財政不如意
ノ現狀ニ於テハ到底此ノ儘持チ堪ヘ難ク實ハ蔣モ思案ニ
暮レ居ル次第ナリ

五、就テハ冒頭電報ニ對スル御回訓ニ際シテハ右等本官ノ疑問ヲモ考慮ニ入レラル様致度尙私見ニ依レハ本計畫ニ對シ我方カ同意ヲ與フル場合ハ少クトモ支那航空權ノ獨占若ハ獨占ニ近キ^(相立)霸握ニ對シ我方カ重大ナル關心ヲ有スル所以ヲ今ヨリ力說申入レ置クコト必要ナルハ勿論ノ儀ト思考セラル爲念

支那航空ノ獨占ヲ企圖スルカ如キコトモ考ヘラレサルニ
アラスヤト述ヘタルニ「ヲ」ハ歐亞航空公司ノ窮乏ハ御
承知ノ通ナルモ其ノ後南京政府及「ルフトハンザ」ニテ
調査セル所ニ依レハ新疆省主席劉文龍ハ蘇聯ヨリ五台ノ
飛行機ヲ貰ヒ受ケ其ノ他ノ航空材料ノ供給ヲモ受ケテ蘇
聯ノ後援ヲ得「ルフトハンザ」トハ別ニ油化ヨリ更ニ「ト
ルキスタン」ヲ經テ莫斯科ニ至ル線ヲ開カントシ居ル爲
南京交通部ヨリ新疆省責任者ニ對シ嚴重注意ヲ喚起セル
モ塔明カス近ク蔣介石カ强硬手段ヲ執ル様手配中ノ由聞
キ及ヒ居レハ其ノ内何トカ連絡開始ノ見込立ツヘク「ユ
ンケル」乗出ハ杞憂ニ過キスト答ヘ居タリ

第七一八號

本省
南京
6月22日後発
6月23日前着

二十二日現ニ徐根ノ下ニ航空署副署長タル陳慶雲(廣東
以来本官トハ^(貌々)懇ノ間柄ニシテ孫文ノ下ニテ初メテ支那航
空司令トナリ現在ハ蔣介石ノ信任厚シノ本官ニ語ル處左
ノ通

一、昨年一年間歐米漫遊ヲ名トシ實ハ蔣ヨリ飛行機買入ニ派
遣セラレ米國「カーチス、ライト」社ヨリ半年毎ニ三十
臺ノ飛行機買入ヲ契約シ來リ之ヲ土臺トシテ杭州ニ於ケ
ル支那側出資米貨二十五萬弗ヲ資本トスル飛行機製作工
場設立ニ成功シタルカ他方南昌ニ於テ同様ノ工場設立ノ
爲獨逸「ユンケル」社トモ話ヲ進メ居ル處「ユ」社ハ競
賣ヲ主トスル爲製造機械ノ值踏高過キルノミナラス支那

309 昭和9年6月27日 在独国永井大使より
中合弁航空機製造工場設立計画の実行を妨害
しない旨獨国航空省当局へ通告について

我が方世論を刺激しない方法によるならば独
本 省 6月27日後着
ベルリン 6月27日前発

第一二九號(極秘)

貴電第七〇號ニ關シ(飛行機製造會社ニ關スル件)
直接當館ニ「アプローチ」セシムルコトハ當初先方ヨリ我
方ニ本件ヲ持出シタル方法ニモ顧ミ面白カラスト認メラル
ル處幸南京發電報第六九八號ノ通り南京ニ於テ獨逸公使館
側ト話合ノ絲口着キタル次第ナルヲ以テ貴電御訓令ノ措置
ハ南京ニ於テ之ヲ行フコト適當ナルヘキニ付右様御取計ア
リタク當方トシテハ海軍武官ト協議ノ上同武官ヨリ本件仲
介者ヲ通シ航空省側ヘ我方トシテハ本件計畫ニ邪魔立テセ
サルモ右計畫ノ實行ニハ日本ノ輿論ヲ刺戟セサル方法ヲ執
ルコト必要ナリ依テ我方ハ右方法考量中ナルニ付本件今後
ノ成行ハ隨時内報ヲ得タキ旨申入レタリ

310 昭和9年6月28日

広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

西北地方開発に関する米中借款説につき真相

探査方訓令

本省 6月28日後7時30分発

最近貴地陸軍側電報ニ依レハ十九日ノ政治會議ニ於テ宋子文ヨリ西北開發等ノ爲三千萬米弗(棉麥借款減額相當額)ノ對米借款案(農具器械類ヲ以テ交付)ヲ提出シ近々米國側ト交渉開始ノ筈ナルヤノ聞込アリシ由ナル處南京發本大臣宛電報第七三五號ノ次第モアリ又

(1) 西北開發ハ銀公司ノ事業及聯盟技術援助ノ題目トナリ居ル一方「モネー」「ライヒマン」等カ米國財界ニ働く掛ケ居ルコト

(2) 支那側ハ豫テ棉麥借款減額相當額ヲ建設材料等ニ變更方ヲ申出テ居ルコト(四月十日附在南京總領事發本大臣宛公信第二五四號ノ三参照)及近ク更ニ棉麥借款ノ條件ヲ變更スル要アルヤモ知レサルコト(往電第一九五號ノ一参照)

等ニ鑑ミ何等カ此ノ種計畫アルニ非スヤ(萬々成功スル如キコトナカルヘキモ)ト存セラルルニ付此ノ上共眞相探査方御配慮アリ度シ
南京、北平、米ヘ轉電セリ

米ヨリ英、佛、紐育、壽府ヘ暗送セシム

311 昭和9年7月12日

在南京須磨總領事より

広田外務大臣宛(電報)

西北地方開発に関する米中借款説を唐有壬否定の上中國建設銀公司の活動振りにつき説明について

南京 7月12日後発

本省 7月12日後着

第七九二號

本十二日唐有壬ノ本官ニ對スル内話

一、日本側ニ於テハ米國カ棉麥借款ノ殘額三千萬弗ヲ西北開發ノ爲支那ニ融通スヘシ等信シ居ル模様ナルモ(支宛貴電第一九六號)右ハ全然事實ニアラス第一銀公司自体スラ宋子文一個人ニテハ如何トモ爲シ難キ仕組トナリ居ル爲宋ハ最近又復外國人顧問等ヨリ材料ヲ集メ同公司ト離

レテ別ニ西北開發ヲ専門トスル「コープレーシヨン」設立方ヲ企ミ居ル様ナルモ右ハ全然見込無カルヘシ
三、銀公司カ成立直後ニ何等カ事業ニ取掛リ度キ希望ヲ以テ先般來中英公司ニモ話ヲ持掛け(公使發閣下宛電報第五六三號)及鐵道部ニモ杭寧鐵道建設資金ヲ銀公司ヲ通シテ融通方持込ミ居ル模様ナル處中英公司スラ利廻り等ノ關係ヨリ親銀行ト直接契約方ヲ希望シ居リ鐵道部ト雖モ從來ノ例ニ從ヒ中國若ハ交通銀行ト直接借款契約締結ヲ望ミ居ル實狀ナレハ銀公司モ今ノ所四苦八苦ノ状態ナリ
支、北平ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

312 昭和9年7月20日 在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

孫科のハイ往訪は米國大統領との会談が目的との情報について

上海 7月20日後発

本省 7月20日後着

(欄外記入)

適當宣傳シ支那計画ヲ破壊シテハ如何

北平、南京、天津、廣東、香港ニ轉電セリ

(欄外記入)

313 昭和9年7月28日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

独中合弁の航空機製造会社設立問題など獨国
の对中国経済活動に対する我が方意向につき
獨国外交官より照会について

南京 7月28日後発
本省 7月28日後着

往電第六九八號二關シ
第八三七號

二十八日「ユンケル」(「ラウテンシユラガ」)不在中當地
獨逸代表者(本官ヲ來訪セル際先方ヨリ日本ハ本件ノミナ
ラス獨逸ノ支那ニ於ケル總テノ經濟的企圖ニ對シ協力セラ
ルル次第ナリヤト切出セルヲ以テ本官ヨリ右ハ公使ノ意ヲ
受ケテノ質問ナリヤト突込ミタルニ「ユ」ハ自分ハ商務官

「フオス」(先般歸國)ノ後ヲ受ケ主トシテ經濟問題ヲ擔當
シ居リ自分限リノ参考迄ニ御伺ヒセル次第ナリト答ヘタル
ヲ以テ本官ヨリ日本ノ協力ナリ參加ナリハ企業ノ具体的性
質ト其ノ當時ノ事情トヲ考慮シテ考ヘラルヘキモノナレハ

一般的ニハ言ヒ難キモ日本ノ東亞ニ於ケル地位ニ顧ミ獨逸
一般的ニハ言ヒ難キモ日本ノ東亞ニ於ケル地位ニ顧ミ獨逸

314 昭和9年7月31日 在ホノルル岡田(兼一)總領事より
広田外務大臣宛(電報)
孫科の米國大統領との会談は実現しなかつた
模様について

支、北平へ轉電セリ

~~~~~  
314 昭和9年7月31日 在ホノルル岡田(兼一)總領事より  
広田外務大臣宛(電報)  
孫科の米國大統領との会談は実現しなかつた

カ支那ニ於テ企業ヲ計畫スルカ如キ場合ニハ先ツ日本側ニ  
相談セラルルコト然ル可シト申聞ケ置キタリ

其ノ際「ユ」ハ實ハ本件ニ關シ「シユテルツ」カ折角努力  
シテ九分通り契約ヲ成立セシメタル處へ極メテ最近伊國航  
空會社「カプロニ」ノ代表者カ同國航空武官ト共ニ「ユン  
ケル」ノ計畫ニ代ハルヘキ案ヲ支那側ニ提出シ來レリ「ユン  
ケル」案カ純商業用ノ金屬機製作ヲ目的トセルニ對シ伊  
國案ハ軍用ニモ代ヘ得ル金屬機及木造機製作ヲ目的トシ居  
ルノミナラス「ユンケル」案カ三百萬馬克ノ資本中三分ノ  
一ヲ支那側ヨリ支出セシメ居ルニ對シ(獨發貴大臣宛電報  
第一五二號)伊國案ハ全然支那側資本ノミニ依ルモ可ナリ  
トノ好餌ヲ含ミ居リ獨逸側計畫モ一頓挫ヲ來シ居レリト述  
べ居タリ

ホノルル 7月31日後発  
本省 8月1日後着

貴電第二七號ニ關シ

孫科ハ「ローヤル、ハワイアン、ホテル」ニ投宿(大統領モ

同「ホテル」ニ投宿)大統領ト會見ノ機會ヲ伺ヒ居タルモ大  
統領ニ於テ政治的會談ヲ避ケ度キ希望ナル趣ニテ遂ニ會談  
シ得サリシ趣一般ニ傳ヘラレ支那人間ニ於テモ同様傳ヘラ  
レ居リ且孫ハ來布早々支那人商業會議所ニ於テ演説中大統  
領ニ會見ノ爲來レル旨述ヘタル様新聞ニ報セラレ居タル處  
二十七日ニ至リ右ハ誤報ナル旨發表セリ

大統領來着ノ際日米各商業會議所代表出迎ヘタルトキ大  
統領ハ日本會議所代表ニ對シテノミ齋藤大使ニ會見セリヤ  
トノ言葉ヲ掛ケ二十六日「レセプション」ノ際ニモ眞先ニ  
紹介サレ本官ニ對シテノミニ、三ノ題目ヲ唱ヘテ談話ヲ試  
ミラレ直後ニ來レル孫科及支那、英國領事等ニハ殆ント無

言ニテ握手セラレタル様子ニテ日本側ニ對シ特ニ注意ヲ拂  
ハレタルヤニ感セラレ本官ヨリモ布畦ノ名花ヲ集メタル花  
籠ヲ贈呈シ置ケリ

米へ轉電セリ

~~~~~

中國側の列國操縱策に鑑み日本側との一層密接な連絡を望む旨在中國獨國公使申出について

南京 8月11日後発
本省 8月11日後着

往電第八三七號ニ關シ(獨支合辦飛行機製造會社ニ日本側加入ノ件)

往電第八三七號ニ關シ(獨支合辦飛行機製造會社ニ日本側加入ノ件)
十一日北上ト會見ノ際「ト」ハ大要左ノ如ク述へ居タリ
一、「シユテルツ」ハ思ハシキ返事ヲ得ス因リ居レリ支那側
ハ列國ヲ完全ニ相手取り抜駁的ニ有利ナル條件ヲ確保セ
ントスル常套手段ニ訴ヘ居リ最近「シーメンス」カ廣東
ニ於テ關係セル事件ニ付見ルモ支那側ハ「セメント」工
場設立ニ付同地ニ於ケル英商社三、米商社二、獨商社二
ニ同時ニ話ヲ持チ込ミ各社共見本取り寄せ、技師招聘等
ノ爲ニ萬弗前後ノ支出ヲ爲シ而モ支那側ハ代金ヲ五箇年
賦ニテ支拂フ旨ノ條件迄定メ置キナカラ結局其ノ何レヨ

十日「トラウトマン」(九日夜故獨逸大統領追悼會ノ爲來寧
十一日北上)ト會見ノ際「ト」ハ大要左ノ如ク述へ居タリ
一、「シユテルツ」ハ思ハシキ返事ヲ得ス因リ居レリ支那側
ハ列國ヲ完全ニ相手取り抜駁的ニ有利ナル條件ヲ確保セ
ントスル常套手段ニ訴ヘ居リ最近「シーメンス」カ廣東
ニ於テ關係セル事件ニ付見ルモ支那側ハ「セメント」工
場設立ニ付同地ニ於ケル英商社三、米商社二、獨商社二
ニ同時ニ話ヲ持チ込ミ各社共見本取り寄せ、技師招聘等
ノ爲ニ萬弗前後ノ支出ヲ爲シ而モ支那側ハ代金ヲ五箇年
賦ニテ支拂フ旨ノ條件迄定メ置キナカラ結局其ノ何レヨ

リモ購入セス佛國側ニ請負ハシメントシ居ル實情ナリ此
ノ際獨逸トシテハ特ニ日本側ト一層密接ナル聯絡ヲトリ
此ノ種手段ニ乘セラレサル様致度シ
誠意疑シク新債務ヲ起サンカ爲ノ申譯的前提ト觀察スル
コト然ルヘシ右整理ニ當ツテモ列國ヲ相互ニ牽制シ居
現ニ獨逸カ平綏線ニ付有スル小額ノ債權ニ付支那側ハ元
金タル米弗ノ值下リニ乘シ整理ヲ行ハントシ「ファウ
ラー」東亞ノ例ヲ引用シテ結局元高ノ半額ヲ切り捨テシ
メニ、三十年ノ不拂ト爲スノ案ヲ持出シ來レリ
三、杭甬線ニ對スル英國ノ投資カ事實セハ其ノ前提トシテ
救濟ノ整理アリタルモノナルヘシト見當ヲツケ調査ノ結
果果シテ津浦線ニ關スル材料賣込債權ニ付整理アリタル
コトヲ發見セリ

支、北平ヘ轉電セリ

316 昭和9年10月1日

在ジュネーヴ横山國際會議事務局長
代理兼總領事より
広田外務大臣宛(電報)

ライヒマン報告を評価し援助継続を至当とする旨の國際連盟对中国援助委員会報告について

別電 十月一日発在ジュネーヴ横山國際會議事務局

長代理兼總領事より広田外務大臣宛第二三二二号

右報告要旨

米ヘ轉電シ在歐各大使ヘ郵送セリ

(別電)

ジュネーヴ 10月1日後発
本省 10月2日前着

第二三二號

委員會ハ「ライヒマン」報告ニ對スル聯盟各種技術機關ノ
意思ヲ了承シ同機關カ本件援助ヲ繼續センコトヲ確信ス委
員會ハ支那ニ於ケル衛生水利道路ノ建設改良ニ付専門家ノ
寄與ノ大ナルヲ認メ特ニ支那政府カ南京及歐洲ニ設置ニ決
力委員會カ有效ニ協力シ得ヘキコトヲ認ム技術的連絡員
「ライヒマン」カ本年八月一日連絡員トシテノ任期満了後
ハ長ク壽府ヲ離能ハサル理由ニ基キ再ヒ衛生局長ノ職ヲ
執ルニ至レルコトヲ認メ目下ノ處直ニ後任連絡員任命ノ必
要無カルヘキヲ以テ事務總長ニ對シ本件事業遂行ノ爲必要
ノ處置ヲ執ルコト就中關係局長一人ヲ短期間支那ニ派遣取
計方委囑ス

往電第一五號ニ關シ

事務局情報部「コンミニニケ」ニ據レハ對支援助理事會委
員會ハ九月二十八日開催要領別電第二三二號ノ如キ理事會
ニ對スル報告ヲ決定セルカ其ノ際郭泰祺ハ支那經濟委員會
最近ノ活動ヲ各方面ニ涉り詳述セル後「ライヒマン」報告
カ聯盟各機關並ニ歐米各方面ニ於テ好評ナルヲ喜フ旨ヲ述

タル趣ナリ

本電同様轉電郵送ス

317 昭和9年11月6日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

メーズ総税務司が中国政府の要請により進め
ていた中国為替管理への英國銀行団援助計画
は中止になったとの陳公博内話について

第一〇五四號

二日上海ニ於テ「ケジツク」ハ本官ニ對シ「メーズ」ハ支那政府ノ命ニ依リ獨、伊及蘇ノ庚子賠償ヲ見返リトシ為替管理ニ付英國銀行家ヨリ援助アリ度旨申入タリト思考セラル節アリト述ヘ居タルカ五日本官ト會見セル陳公博ハ中國、中央、交通ノ三銀行ヨリ為替管理ニ付香上銀行ヲ中心トスル英國銀行團ニ對シ相談スヘシトノ議起り右トモ關聯シテ「メ」ノ引返トナリタルコトハ事實ナルモ平衡稅實施後ノ經過ニ徵シ結局本件モ銀塊相場ト支那銀貨トノ關係ヲ如何ニ調節スルカノ内政問題ニ過キストノ意見ニ傾キ右銀行團ノ相談ハ沙汰止トナレリト語リ居タリ

支、北平へ轉電セリ

(欄外記入)
メノ陰謀暴露方考慮ノ可否

本件ハ暴露スルコト可ナルヘシ 守島

318 昭和9年11月7日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国航空公司の五千万ドル借款契約説に関する情報について

二日上海ニ於テ「ケジツク」ハ本官ニ對シ「メーズ」ハ支那政府ノ命ニ依リ獨、伊及蘇ノ庚子賠償ヲ見返リトシ為替管理ニ付英國銀行家ヨリ援助アリ度旨申入タリト思考セラル節アリト述ヘ居タルカ五日本官ト會見セル陳公博ハ中國、中央、交通ノ三銀行ヨリ為替管理ニ付香上銀行ヲ中心トスル英國銀行團ニ對シ相談スヘシトノ議起り右トモ關聯シテ「メ」ノ引返トナリタルコトハ事實ナルモ平衡稅實施後ノ經過ニ徵シ結局本件モ銀塊相場ト支那銀貨トノ關係ヲ如何ニ調節スルカノ内政問題ニ過キストノ意見ニ傾キ右銀行團ノ相談ハ沙汰止トナレリト語リ居タリ

(一)右借款説ハ事實ニアラス(前記航路開始ニハ「ドルフィン」機ニ臺位ニテ為シ得ヘク夫レ程巨大ノ借款ノ必要ナシトノコトナリ)
(二)馬尼刺^(利カ)トノ聯絡案ハ進行シ居ルモ開通ハ明年秋ノ豫定ナ

第八六五號

最近當地ニ於テ馬尼刺^(利カ)上海航空聯絡ハ愈實施セラルヘク之ニ關聯シ中國航空公司ハ五千萬弗ノ借款契約ヲナシタリトノ說傳リ居ルカ諜報者カ同航空公司關係者ヨリ入手セル情報ニヨレハ

(一)右借款説ハ事實ニアラス(前記航路開始ニハ「ドルフィン」機ニ臺位ニテ為シ得ヘク夫レ程巨大ノ借款ノ必要ナシトノコトナリ)
(二)馬尼刺^(利カ)トノ聯絡案ハ進行シ居ルモ開通ハ明年秋ノ豫定ナ

リ

(三)香港經由ハ拒絕セラレタルモ今尙米國政府ヨリ英國政府ニ掛合中ナリ

(四)香港經由カ出來サレハ廣東經由ノ外澳門經由ノ案アリ且下研究中ナリ

(五)本航路ヲ「オペニー」スルモノハ China Air Ways Fed. J.V.C (Pan American 會社)ノ子會社ノ筈

北平、南京、廣東、香港、馬尼刺^(利カ)へ轉電シ上海へ轉報セリ

319 昭和9年11月27日 在漢口三浦總領事より
広田外務大臣宛(電報)

英國商による湖南省アンチモニー一手販売権
獲得運動への対処方略

漢 口 11月27日後発
本 省 11月28日前着

第三〇〇號

本官發長沙宛電報
第二六號

長沙發本官宛電報第五一號及南京發本官宛電報第一九號ニ

反シ關係各國ノ通商上ノ利益ヲ侵害スルモノト觀ルヲ得ヘキヤニ思料セラル就テハ若シ右ノ見解カ滿洲ニ於ケル石油專賣問題其ノ他過去並ニ將來ニ於ケル我方ノ立場ニ

累ヲ及ホササルニ於テハ現地ニ於テハ勿論南京政府側ニ對シテモ本件計畫阻止方此ノ上トモ手配スルト同時ニ更ニ進テ關係各國ヲモ誘ヒ協力セシムルモ一策カト存セラル處右ニ對スル何分ノ貴見折返シ御電示ヲ請フ

三、尙他ノ利害關係國ハ米國、獨逸ヲ初メトシ蘭、白、佛、丁抹、瑞典等ノ諸國ナリ爲念
支、南京、北平、長沙へ轉電セリ

支、南京、北平、長沙へ轉電セリ

(欄外記入)

本件ニ付九國條約ヲ云々スルハ危險ナリ九國條約ハ主權トルコト可然

320 昭和9年11月30日

廣田外務大臣より
在中國有吉公使宛(電報)

英國商による湖南省アンチモニー一手販売権

獲得運動の阻止方回訓

付記 作成日、作成局課不明

「湖南省「アンチモニー」問題ニ關スル件」

本省 11月30日発

第三〇四號

漢口來電第三〇〇號ニ關シ

一、本邦ニ輸入セラルル「アンチモニー」ハソノ大部分(九割乃至十割)ヲ支那ニ仰キ居ル現狀ニテ一英商ノ手ニソノ供給ノ殆ント全部ヲ握ラルカ如キ本件計畫ハ是非阻止ノ要アリ

二、而シテ本件販賣獨占權ノ設定ハ機會均等主義ヲ援用スル迄モナク(同主義ヲ援用スルハ九國條約論ヲ惹起スル惧レモアルニ付格別ノ必要生セサル限り差當リ之ヲ差控フルコトト致度)支那ト諸外國間ニ存スル通商條約上保障セラレタル輸出入ノ自由(日支通商條約第九條其他)並ニ支那人トノ取引ノ自由(望廈條約第十五條其他)ヲ制限スルモノナルコト明瞭ナルニ付キ右條約違反ノ點ヲ指摘シ中央並ニ省政府當局ニ嚴重抗議ノ上本件計畫阻止方御盡力相成度

三、尙前掲漢口來電末段關係國側ノ勸誘ニ關シテハ歩調ノ一

(二)支那側ニ對スル措置

支那側ニ對シ抗議スルニハ理論上九國條約論ト通商條約論ト何レニ依リテモ可ナルカ前者ハ右(一)ノ如ク之ヲ援用スルコト好マシカラス通商條約論ニテ充分ナリ

(三)英國側列國側ニ對スル措置振

英國側ニ抗議スルニハ九國條約乃至ハ機會均等論ニ依ル外ナキモ之ヲ援用スルコト好マシカラス又英國側ニ抗議スルモ實益ハ疑問ナリ

列國側ヲ誘ヒテ支那側ニ抗議スルコトハ好マシキモ九國條約ヲ云々スル必要ナク我方先ツ抗議ノ上對支交渉開始スレハ利害關係アル諸國ハ追従シ來ルヘシ

(四)實際的解決方法

「アンチモニー」ハ通商上軍事上相當重大問題ナルニ付在支公使ニ對シ右(一)乃至(三)ノ次第ヲ含ミ支那側ニ嚴重交涉方訓令ノ上本件「アーノルド」ノ獨占權ヲ取消サシムル様又第二案トシテ本邦商社ヲモ參加セシムル様措置セシムルコト可然

(五)本件ニ對スル新聞指導振

ヘキ旨ヲ宣傳スルコト必要ナルモ九國條約及機會均等論等條約論ニハ觸レサルコト繫要ナリ満洲石油ノ「アナロジー」ニモ成ルヘク言及セス唯列國ハ日本ノ行動ニ兔角批評ヲ加フルモ支那資源獨占ハ列國コソ之ヲナシツツアリト言フカ如キ政治論ニ止ムルコト

321 昭和9年12月3日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中國滯在中の在ソ連邦米国大使に宋子文が西北地

方開発への米国投資を要望したとの情報について

上 海 12月3日後発
本 省 12月3日後着

第九〇五號

「ブリット」大使ハ滯滬中「モネー」ノ紹介ニ依リ「マゾウ」(銀公司顧問)ノ宅ニ寄寓シタルカ一日「マ」カ須磨ニ

對シ「ブ」滯滬中ノ行動ニ關シ内話セル所左ノ通

宋子文ト「ブ」トノ間ニ西北ヲ中心トスル經濟委員會ノ活動ニ付數回話合アリタルカ宋ヨリ米國ノ投資ヲ望ムカ如キ口吻アリシニ對シ「ブ」ハ最初ヨリ大統領ニ於テハ同人ノ

ローマ 12月13日後發
本 省 12月14日前着

第一五一號

十二月十三日「ハース」來訪聯盟ノ支那技術援助事業ノ爲凡ソ二箇月ノ豫定ニテ近ク出發スヘキニ付何等心得トナルヘキコトアラハ聞キ度シト言ヘルヲ以テ

322 昭和9年12月13日 在伊国杉村(陽太郎)大使より
広田外務大臣宛(電報)

北平、南京ニ轉電セリ

國際連盟の对中国援助問題に關し連盟連絡員として近く訪中予定のハースと意見交換について

ローマ 12月13日後發
本 省 12月14日前着

「ブリット」大使ハ滯滬中「モネー」ノ紹介ニ依リ「マゾウ」(銀公司顧問)ノ宅ニ寄寓シタルカ一日「マ」カ須磨ニ

對シ「ブ」滯滬中ノ行動ニ關シ内話セル所左ノ通

宋子文ト「ブ」トノ間ニ西北ヲ中心トスル經濟委員會ノ活動ニ付數回話合アリタルカ宋ヨリ米國ノ投資ヲ望ムカ如キ口吻アリシニ對シ「ブ」ハ最初ヨリ大統領ニ於テハ同人ノ

ナキノ事實ヲ現實ニ確認セラルニ至ルヘク兔二角從來ノ行懸上一應聯絡ヲ取ル必要モアレハ渡支スル次第ナリト答ヘ尙日本側ニ於テ此ノ上トモ誤解無キヲ望ム旨ヲ希望シ米國經由渡支ノ途中便船横濱ニ一兩日碇泊スヘキヲ以テ特別ノ用件ハ無キモ上京シテ重光次官ニ挨拶シ度シト言ヒタレハ本邦立寄ノ日程等横山總領事ニ依頼シ東京ニ電報スヘキ旨申置ケリ

壽府へ轉電セリ

323 昭和9年12月15日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国政府よりの対英二千万ポンド借款要請を
断つた旨在中国英國公使内話について

上 海 12月15日後発
本 省 12月15日後着

第九三三號

(一)概ニ技術援助ト稱スルモ支那ノ現状ニテハ政治問題ト技術問題ト區別シ難ク現ニ「ライヒマン」ノ如キハ技術ノ名ニ隠レテ外交ニ關與セリト非難サレタルニ非スヤ加之

(二)蘇聯邦ノ聯盟加入ハ日本側ヨリ見レハ聯盟ノ對支事業ノ性質ヲ一變セリ

抑々日本カ聯盟ヲ脱退シタルハニ支那問題ニ對シ政治的見解ヲ異ニシタルカ爲ナレハ支那ニ關スル技術的援助ニシテ(一)ノ如キモノトセハ他ノ一般ノ平和的國際協力トハ自ラ異リ之ニ好感ヲ表シ得サルハ當然ノ筋合ニテ右ハ該援助事業ト間接ニ關係アリト看做シ得ルモノニ付テモ同一ナリ又我方ハ蘇聯邦ニ對シ一方ニハ現ニ平和的態度ヲ取ルモ他方ニハ苟モ破壞的赤化運動カ東亞ニ侵入スルヲ假借セサルヘキ固キ決意ヲ有スルヲ以テ(二)ノ見地ヨリ一層支援ヲ肯シ得サル次第ナリト說キタルニ「ハ」ハ良ク了解セリ(一)ニ付テハ援助事業ヲ保健道路等純然タル技術的性質ヲ有スルモノニ限リ(二)ニ付テハ直接ニモ間接ニモ蘇聯ノ介入ヲ阻止スルコトトスヘク且事業ノ規模モ當初企畫シタルモノニ比シ大イニ縮少セラルヘケレハ日本側ニ於テモ必スヤ政治ト交渉

意見ヲ期待シ居ル譯ナレハ投資等具体的問題ニ觸レス米國ノ極東政策ヲ誤ラシメサル様大綱ヲ摑ムコトヲ主眼トシ居ル次第ニテ宋ノ申出ニ對シテハ何等意見ヲ述ヘ難シト應酬シタル趣ナリ尙「ブ」ハ日支兩國ヲ比較シテ支那ハ萬事簡單ニ行キ例ヘハ蔣介石個人ノ思惑ニ依リ何事モ左右シ得ルカ如キモ日本ハ極メテ複雜ニシテ政治ト言フモ雜多ノ分子ヲ含ミ居ル點深ク印象セラレタリト常ニ語リ居タル趣ナリ

意見ヲ期待シ居ル譯ナレハ投資等具体的問題ニ觸レス米國ノ極東政策ヲ誤ラシメサル様大綱ヲ摑ムコトヲ主眼トシ居ル次第ニテ宋ノ申出ニ對シテハ何等意見ヲ述ヘ難シト應酬シタル趣ナリ尙「ブ」ハ日支兩國ヲ比較シテ支那ハ萬事簡單ニ行キ例ヘハ蔣介石個人ノ思惑ニ依リ何事モ左右シ得ルカ如キモ日本ハ極メテ複雜ニシテ政治ト言フモ雜多ノ分子ヲ含ミ居ル點深ク印象セラレタリト常ニ語リ居タル趣ナリ

四 中国をめぐる列国との関係

(欄外記入)
ヲ提示シタル趣ニテ一箇月前香上等ヨリ自分ニ對シ本件計
畫ニ對シ外交的援助ヲ期待シ得ヘキヤ否ヤヲ照會越シタル
ニ付本国政府ト打合セタル結果本件ハ正式ニ政府筋ヨリ自
分ニ申出アル場合ニ限り考慮スヘシトノ趣旨ヲ支那側ニ同
答セシメ置キタル處最近孔財政部長ヨリ自分ニ對シ英貨二
千萬磅ノ借款ヲ申出テ來レリ英國ハ借款ニハ絶対應スル意
思ナキニ付右ノ旨ヲ孔部長ニ回答シ置キタリト内話セル趣
ナリ

北平、南京ニ轉電セリ

324 昭和9年12月20日 在漢口三浦總領事より
広田外務大臣宛(電報)

アンチモニー一手販売権に関する英國商との
交渉打切りにより今後日本側の援助を希望す
る旨湖南省主席代理申出について

漢口 12月20日前發
本省 12月20日後着

打切ヲ正式決定セシメタル旨申越スト共ニ今後日本側ノ援
助ヲ望ム旨重ネ依頼越セリ豫テ同人ニ對シテハ日本側ハ
決シテ他ヲ排シテ拔駁ノ利權ヲ得ントスル次第ニアラサル
コトヲ説示スルト共ニ三井及三菱側ニテハ買付ノ形式ヲ以
テスルナラハ援助ニ吝ナラサル意向ナル旨申聞ケ置キタル
處曹ハ十五日以來日本側ノ利便ヲモ考ヘ昨日既ニ貿易處制
度ノ一部ヲ變更セリトテ具体案ヲ持出シ來レリ

支、北平、南京ヘ轉電セリ

2 中国建設銀公司の設立
325 昭和9年2月16日 在南京須磨總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

中国開発事業に対する國際協力の具体案作成に
当たり日本を除外しない旨をモネ声明について

南京 2月16日前發
本省 2月16日後着

第一一八號
⁽¹⁾公使發閣下宛客年往電第七四三號ニ關シ
本官上海出張ノ序ヲ以テ十三、四ノ兩日ニ亘リ「モネー」
及「ソルター」ト會見其後研究ノ結果結論ニ達シタルヤヲ
尋ね長時間ニ亘リ會談シタルカ其要領左ノ通

一、「ソルター」談

自分ノ専門タル幣制及稅制ヲ中心トシテ支那一般財政ニ

付研究ヲ遂ケタルニ宋子文ノ云フ通り數字ハ成程符合ス

ルモ右數字カ肝心ノ事實ニ即セサルヲ發見シ結局支那財

政ヲ闡明スルニハ實情ヲ萬遍ナク踏査スルノ外ナク自然

地理的及政治的ニ最モ近接スル日本ヲ措キテ之カ眞相ヲ

ヲ使用スル毎ニ右ニ相當スル額ノ銀塊ヲ上海ニ積立ツル案
の二支那ノ建設ニ助力セントセハ日本ノ役割ハ之ニ缺ク
ヘカラサルノミナラス或ハ貴説ノ如ク日本ニ「ブレドミ
ナント、シエア」ヲ與フル事モ事實上必要ナルヘキヲ
漸次納得セル事實ナリ從ツテ「ラ」及「ア」ニ對スル報
告中ニハ日本ヲ除外スルカ如キ案ハ決シテ提示セサル心

ヲ使用スル毎ニ右ニ相當スル額ノ銀塊ヲ上海ニ積立ツル案

ヲ提示シタル趣ニテ一箇月前香上等ヨリ自分ニ對シ本件計
畫ニ對シ外交的援助ヲ期待シ得ヘキヤ否ヤヲ照會越シタル

ニ付本国政府ト打合セタル結果本件ハ正式ニ政府筋ヨリ自

分ニ申出アル場合ニ限り考慮スヘシトノ趣旨ヲ支那側ニ同

答セシメ置キタル處最近孔財政部長ヨリ自分ニ對シ英貨二

千萬磅ノ借款ヲ申出テ來レリ英國ハ借款ニハ絶対應スル意

思ナキニ付右ノ旨ヲ孔部長ニ回答シ置キタリト内話セル趣

ナリ

第三三六號

長沙發本官宛電報

第七三號

大臣へ轉電アリタシ

第六七號

往電第六〇號及機密第二八八號ニ關シ

本月十五日「アンチモニー」問題ニ付省政府代理主席曹典

球往訪ノ際曹ハ「アーノルド」トノ契約交渉打切ニ應スル

ノ意ヲ洩シ居タルカ本十九日同人ハ聯合貿易處ヲシテ交渉

打切ヲ正式決定セシメタル旨申越スト共ニ今後日本側ノ援

助ヲ望ム旨重ネ依頼越セリ豫テ同人ニ對シテハ日本側ハ

決シテ他ヲ排シテ拔駁ノ利權ヲ得ントスル次第ニアラサル

コトヲ説示スルト共ニ三井及三菱側ニテハ買付ノ形式ヲ以

テスルナラハ援助ニ吝ナラサル意向ナル旨申聞ケ置キタル

處曹ハ十五日以來日本側ノ利便ヲモ考ヘ昨日既ニ貿易處制

度ノ一部ヲ變更セリトテ具体案ヲ持出シ來レリ

支、北平、南京ヘ轉電セリ